

## 第2章の読み方

### ● 本章の目的

本章では、誰にでも起こるスキントラブルを提示しています。「ドライスキン」「浸軟」「浮腫」の症候に、在宅療養者に多くみられ、さらに季節によって起こりやすい皮膚疾患である「真菌感染症(白癬)」「低温熱傷」を加えて構成しました。在宅で療養する人々がこれらのスキントラブルを防ぎ、もしくは早期に改善し悪化をしないように予防的な観点でのケアを紹介しています。

### ● 他章との関係(関連図)

誰にでも起こるスキントラブルは、療養者自身の要因や療養生活環境などによって生じ、さらには悪化する場合があります。また本章で取り上げるスキントラブルは、次の「第3章 ハイリスクな療養者のスキントラブル」の発生要因にも大きく関与しています。したがって「第1章 スキンケアの基本」を継続することにより、本章の「誰にでも起こるスキントラブル」を予防することが重要です。さらに「第3章」の創傷に移行しないように、症候や疾患を理解し十分なアセスメントと予防的ケアを継続することの必要性を提示しています。

### ● 本章でお伝えしたいこと

本章では、誰にでも起こるスキントラブルの症候や疾患の理解をもとに、在宅療養の特徴を踏まえアセスメントを提示し、療養者・介護者と協力して行う予防的ケアを紹介しています。

在宅療養者のアセスメントは、療養者の生活と人そのものを多面的にみる視点が大切です。療養者や家族が行っているケアには理由があります。アセスメントには、症候や疾患、ケアに対する思いやライフヒストリーを大切に聴き、価値観・人生観を理解するように努めることが重要であると考え、「皮膚をみる」「全身状態をみる」「生活環境をみる」「人・ライフスタイル・価値観をみる」の4つの視点でアセスメントのポイントを提示しています。

また本章では予防的なケアの観点から、前章の基本的なスキンケアに基づき、各症候・疾患の特徴に焦点を当てた予防的スキンケア、発症時のケアのポイントなどを紹介しています。誰にでも起こるスキントラブルをできる限り回避、予防するために、療養者個々の皮膚状態やライフスタイルに合った、その家庭で継続できる最善の予防的スキンケア方法を療養者・介護者・家族と一緒に考え、実践できるようにまとめています。

**基本の知識：在宅療養者の皮膚の理解**

**第1章**  
在宅におけるスキンケア  
の意義、目的

**第2章**  
皮膚のはなし

**第3章**  
栄養のはなし

**第4章**  
創傷のはなし

**実践の知識：アセスメントと予防的スキンケア**

**第1章 スキンケアの基本**

洗浄の  
スキンケア

保湿の  
スキンケア

保護の  
スキンケア

医療用テープの  
知識と使い方

ケアの継続により  
発生・悪化を予防

ケアの継続により  
重症化・再発を予防

アセスメントと予防的ケアの継続により重症化を  
発見・予防

**第2章 誰にでも  
起こるスキントラブル**

**ドライスキン**

要因  
基礎疾患／皮膚の老化／  
低栄養 など

**浮腫**

要因  
基礎疾患／  
皮膚の脆弱性／  
組織耐久性の低下  
など

**浸軟**

要因  
基礎疾患／スキン  
ケア不足／  
療養生活環境  
など（おむつの使用）  
など

**低温熱傷**

要因  
活動性、  
可動性の低下／知覚  
障害／療養生活環境  
（温巻法の取り扱い）  
など

**真菌感染症**

要因  
スキンケア不足／  
療養生活環境  
（高温多湿な皮膚環境）  
など

**第3章 ハイリスクな  
療養者の  
スキントラブル**

**スキン-ケア**

要因  
基礎疾患／高齢者／  
バリア機能の低下、皮膚の  
脆弱化 など

**失禁関連皮膚炎**

要因  
バリア機能の低下／  
皮膚の脆弱化／  
組織耐久性の低下／  
失禁 など

**褥瘡**

要因  
活動性、可動性の低下／低栄養／骨突出  
など

.....➡ 影響

# 1 ドライスキン

- ドライスキンは、在宅で療養する高齢者に多くみられ、皮膚を保護するバリア機能が破綻することによって、外部からの刺激やアレルギーの侵入が容易となり、さまざまなスキントラブルを生じます。
- ドライスキンのアセスメントは、皮膚や症候の特徴を理解したうえで療養者の生活環境、生活習慣などを多面的に捉え予防的ケアを検討しましょう。
- ドライスキンの予防的ケアは、皮膚のバリア機能を守る愛護的な洗浄のスキンケア、各々の家庭で継続できる保湿のスキンケアを行うことが重要です。

## ドライスキンとは

### 症候の理解

#### ❖ 定義

ドライスキンは、皮膚の表面が乾燥し鱗屑<sup>りんせつ</sup>★を付着した状態の皮膚をいいます。角層の水分含有量は、正常では約20～30%とされていますが、ドライスキンの状態では10%以下にまで減少します(写真2-1)。

#### ★鱗屑：

角層が著しく角化、または不全角化して皮膚の上に乗っている状態



拡大

● 写真2-1 ドライスキン (下腿部)

## ❖ メカニズム

人は、体内に約70%の水分を保持しています。皮膚は、この体内の水分が体外へ蒸発しないように、また外部からの刺激から身体を守るようにするための役割（バリア機能）を備えています。

ドライスキンは、角層の柔軟性が低下して硬く脆くなり、角層の水分量が減少し、健康な皮膚がもつバリア機能が障害された状態になります。

特に高齢者の皮膚<sup>\*</sup>は、角質細胞間脂質、皮脂、発汗の減少により角質の水分量が減少し、角質表面が乾燥します。また、表皮細胞の新陳代謝（ターンオーバー）が低下するため、角質細胞が大型化して角層が厚くなります。そのため、真皮の水分が角質表面に十分達することができず乾燥します。

さらに、ドライスキンが長期間続くと、かゆみの神経が表皮内に進入してくるため、わずかな刺激でもかゆみに敏感になります。掻破によって皮膚や末梢神経は損傷し、さらに掻破行為を強めるという悪循環に陥ります。ドライスキンは、スキン-テア、失禁関連皮膚炎（IAD）、褥瘡の発生要因にもなります。年間を通してドライスキンの予防的スキンケアが必要です。

ドライスキンの種類を表2-1に示します。

※基本「第2章 皮膚のはなし 2皮膚に影響を与える要因」参照

## 在宅療養者の特徴

在宅療養者の看護・介護の場面では、着替えのために脱衣すると粉状のものが舞い上がる、下腿部の皮膚がひび割れのようにになっている、上肢に白くかいた跡がありカサカサしている、このような光景をよく目にするのではないのでしょうか。

角層の水分が減少すると、皮膚はカサカサして、細かい鱗屑が付着した乾皮状態になります。皮膚の柔軟性が低下し、体動による皮膚

● 表2-1 ドライスキンの種類

生理的ドライスキン	新生児，小児，中高年の女性，高齢者
皮膚炎に起因するもの	アトピー性皮膚炎，魚鱗癬の初期症状など
角層の化学的障害によるもの	洗剤の接触，脂溶性溶媒の接触など
全身的な疾患によるもの	腎不全，透析を行っている者，粘液水腫，栄養障害，ビタミンA欠乏症など

の伸展により皮膚表面に亀裂を形成することもあります。

ドライスキンは、入浴湯温度の高さ、入浴時間の長さ、洗身時に使用するタオル類の材質、過度の洗浄剤の使用や洗浄、低湿な住環境などによっても起こります。特に冬の季節は、ドライスキン症状が下腿に多くみられ、加齢とともに増加します。

## 予防のアセスメント

ドライスキン	皮膚をみる	<input type="checkbox"/> 部位 (どこに) <input type="checkbox"/> 症状 (何が)	<input type="checkbox"/> 程度 (どのように) 掻痒感、臀部・四肢伸側皮膚の鱗屑、下腿前面の浅い亀裂の形成、掻破痕と点状痂皮
	全身状態をみる	<input type="checkbox"/> 年齢：幼児期・学童期、高齢者 <input type="checkbox"/> 性別：男性・女性 <input type="checkbox"/> 基礎疾患 <input type="checkbox"/> 食事摂取量	<input type="checkbox"/> 水分摂取量 <input type="checkbox"/> 栄養状態 <input type="checkbox"/> 使用している薬剤
	生活環境をみる	<input type="checkbox"/> 季節の影響 (秋～冬) <input type="checkbox"/> 住環境 暖房器具、エアコンの冷房・除湿	<input type="checkbox"/> 居室の室温・湿度 <input type="checkbox"/> 1日・1週間・季節の過ごし方 <input type="checkbox"/> 介護者の介護力
	人・ライフスタイル・価値観をみる	<input type="checkbox"/> 清潔習慣 <input type="checkbox"/> 入浴 頻度、入浴時の湯温度、入浴の所要時間 <input type="checkbox"/> 洗浄のスキンケア 洗浄剤の種類、洗浄方法・頻度 <input type="checkbox"/> 保湿のスキンケア 保湿剤の種類、保湿の方法・頻度	<input type="checkbox"/> 着衣の素材 <input type="checkbox"/> ストレス <input type="checkbox"/> 嗜好品 <input type="checkbox"/> 本人の思い・希望 <input type="checkbox"/> 家族の思い・希望

### ❖ 全身状態をみる

#### ● 年齢：幼児期・学童期、高齢者

幼児期・学童期は、皮脂の分泌量が減少し、皮膚は乾燥しやすくなります。高齢者は、乾燥する冬の季節に、角層の水分量が低下し、皮膚の乾燥が生じることにより、掻破を伴う症状が強くなります。

#### ● 性別：男性・女性

女性は、加齢に伴い皮脂の分泌が減少することにより皮膚が乾燥します。特に冬の季節には、下肢部や踵部に多くみられます。男性は、50歳代以降より男性ホルモンの分泌機能が低下し、皮脂の分泌が減少することにより皮膚が乾燥します。主に下肢部や腰部に多くみられます。